

第175回 令和8年2月13日（金）

「全国大会について思うこと」

バスケットボールのウィンターカップが年末東京で開催されます。最近はソフトバンクなどが協賛して動画で見ることもできて、高校生の最高峰の試合に感心します。

でも少し思うのは、特に女子は留学生の存在が圧倒的だということです。いろいろな考え方があると思いますが、私は留学生を出すことについて、良いか悪いかの2択のような気がします。

留学生はその学校の正式な生徒であり、部活動だけでなく学業もしっかり取り組んでいるというのなら、別に何人出てもいいような気がします。わざわざ「オンザコート！」に限定することもないのではないかでしょうか。

メンバー5人全員が留学生で、超ハイレベルのプレーを見せてくれるのならそれも良いのではないでしょうか。ただし全国優勝したらその県の出場枠は増やすべきですし、圧倒的な強さを持ったチームはある程度シードして上位の試合から出場させるべきだと思いますが。

個人的な意見としては留学生が出場することにある程度の不公平感があるのなら方法は考えていくべきだと思います。留学生は金銭的に余裕のある私学以外は難しい、公立高校には（少なくとも県立には）真似はできません。それは格差だと思います。

経済的な要素も強さのうちだと思うので仕方がないとは思います。だとしたら公立高校のNO.1を決める大会があっても良いような気がします。

社会では経済的な格差に対して厳しい批判があがりますが、高校生がいろいろなものを犠牲にして努力し目指しているものが自分ではどうしようもない格差であきらめざるを得ないのは少し悲しい気がします。多くの公立高校の生徒はこの全国大会を別世界、届きようもない世界のように見ていると思います。

指導者としては留学生に勝つために努力をしろと言いますし、実際に勝利を収めるチームもあると思います。でもそれはほんの一部の学校にすぎないと思います。

競争をなくせと言っているのではなくて、入試などを突破して入学した生徒で戦うことも大事なのでないかと思います。生徒たちは泣き言を言いませんし、与えられた戦力で全力を尽くします。出た結果は受け入れます。

でも大人がその舞台をゆがめてしまっているような気がするのは私だけでしょうか。